

JAPAN CASTLES EXAM — WEST JAPAN BASIC

2026年9月版

日本名城検定西日本 想定問題集

解説つき 全問オリジナル作成

6

問収録

無料サンプル版

製品版は全160問

SKILL BASE CAMP

本書は非公式の学習教材です。試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。
公的機関の公表資料および一般に公開された情報のみに基づき、著者が独自に作成しています。

本書について

本書は、日本名城検定西日本（ベーシック）の想定問題集（全160問）の**無料サンプル版**です。製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、6問を抜粋しています。

対象	日本名城検定西日本（ベーシック）の受験者
出題形式	多肢選択式、問題数40問（受検案内「試験内容」西日本）
収録数	6問（各章の問題のあとに解答・解説）
準拠	受検案内・日本名城検定とは（一般社団法人日本総合検定資格センター、2026年9月取得）、および対象16城について自治体・教育委員会・文化庁が公開している資料

本書が対象とする範囲について（必ずお読みください）

本試験は、東日本・中日本・西日本の3エリアで計100城を選出して出題されていますが、**西日本エリアの出題対象の城名一覧、および西日本に含まれる府県の範囲は、公式テキスト以外の 公開資料には記載がありません**。本書は、近畿・中国・四国・九州・沖縄を西日本の仮の範囲とし、そのうち自治体・教育委員会・文化庁などの公開資料で所在地・沿革・構造などの裏付けが取れた **16城**（姫路城・彦根城・二条城・大阪城・和歌山城・備中松山城・岡山城・広島城・伊予松山城・高知城・丸亀城・熊本城・福岡城・佐賀城・島原城・首里城）と、城郭全般の一般知識（共通科目）で作問しています。本試験の出題対象の城・府県とは**ずれる可能性があります**。

科目別の出題割合も公表されていません。本書では、受検案内に列挙された中項目の数の比（西日本の日本名城全数8：共通3）にもとづいて配分しています。本試験の実際の出題比率を **再現したものではありません**。

本試験の形式と合格基準

本試験はWEB受検（自宅・職場などからパソコン・タブレット・スマートフォンで受検）の多肢選択式で、問題数は40問です。合格基準は正答率75%以上とされていますが、「難易度により調整されることがある」との注記があります。試験時間・配点は資料に記載がないため、本書では扱っていません。合否は検定日から約60日後にメールで個別に通知されるとされています。

2科目と配点

出願内容は「西日本の日本名城全般」（個別）と「共通」の2科目です。科目別の出題割合は公表されていないため、本書は受検案内が示す中項目の数の比にもとづき、次の配分で収録しています。

西日本の日本名城全般 116問（72.5%）

共通 44問（27.5%）

解き方の目安

「西日本の日本名城全般」は、所在地・別名・城地種類・築城年代・築城者・城主・城の歴史・城の構造という8つの観点で16城の事実を確認する構成です。同じ城の同じ事実を、属性を変えて二度問うことはしていないので、1問ずつ独立した知識として押さえてください。年数や高さを扱う計算問題は、資料の数値を足し算・引き算するだけで解けるように作っていますが、資料の数値が四捨五入や幅（「4年ないし7年後」のような表記）を含む場合は、その旨を解説に明記しています。「共通」は特定の城を問わない城郭の一般知識で、縄張・曲輪・虎口といった構成要素の名称と、古代から近代までの城の歴史の流れを扱います。

収録内容

本書のご利用にあたって

本書をお読みになる前に、以下の事項をご確認ください。ご購入・ご利用をもって、これらに同意いただいたものとみなします。

- 1. 本書は非公式の学習教材です。** 日本名城検定西日本を実施する一般社団法人日本総合検定資格センターの公認・監修・推奨を受けたものではなく、同機関および関係する事業者と本書の著者との間に、資本関係・提携関係・その他一切の関係はありません。
- 2. 西日本エリアの出題対象の城・府県は公表されていません。** 本書は、近畿・中国・四国・九州・沖縄を西日本の仮の範囲とし、公開資料で裏付けが取れた16城と城郭全般の一般知識で作成した想定問題集です。本試験の出題対象の城・府県とはずれる可能性があります。科目別の出題割合も公表されていないため、受検案内が示す中項目の数の比で配分しています。
- 3. 本書の問題・解説は、すべて著者が独自に作成したものです。** 試験問題を再現・引用したものではありません。また、公式テキスト、講座資料、他社の教材から文章を転載した箇所也没有ありません。作成にあたっては、自治体・教育委員会・文化庁など官公庁等が公表している資料のみを参照しています。
- 4. 本書は試験に出題される内容を予測・保証するものではありません。** 収録した問題は、公開されている出題範囲と公開資料をもとに著者が独自に構成した想定問題であり、実際の出題との一致を意図したものでも、保証するものでもありません。本書を学習しても合格を保証するものではありません。
- 5. 内容は制作時点の情報に基づきます。** 公式テキストの内容や、対象となる城の一覧が改定・拡充される可能性があります。本書の記述が最新の状況と異なる場合がありますので、実際の受験にあたっては、必ず実施団体が公表する一次情報をご確認ください。

6. **内容の正確性について。** 著者は内容の正確性に努めていますが、誤りがないことを保証するものではありません。本書の利用によって生じたいかなる損害についても、著者は責任を負いかねます。
7. **複製・再配布の禁止。** 本書は購入者ご本人が学習に利用する目的で提供されています。全部または一部を問わず、複製、転載、譲渡、貸与、公衆送信（インターネット上での共有・アップロードを含む）、翻案することを禁じます。
8. **商標について。** 本文中に記載される試験名、団体名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。これらの表示は、当該商品・サービスを説明する 目的で用いているものであり、権利者による本書の承認を示すものではありません。

サンプル問題

製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、全収録問題から抜粋しています。計算問題・事例問題も含めています。

問 1

西日本の日本名城全般

姫路城大天守の海拔

姫路城の大天守の高さについて、姫路市の資料は次の3つの数値を示している。大天守の最上部の高さを海拔で表すと何メートルになるか。

姫路城大天守の高さの内訳（単位：m）

部分	高さ
姫山の標高	45.6
石垣の高さ	14.85
建物の高さ	31.5

- A 46.35m
- B 91.95m
- C 77.1m
- D 60.45m

問 2

西日本の日本名城全般

備中兵乱

備中松山城をめぐる「備中兵乱（中国兵乱）」の説明として、最も適切なものはどれか。

- A 永禄4年（1561）に、毛利元就の支援を得た三村氏が尼子氏の加番を討ち破り、備中松山城を手に入れた戦いを指す
- B 天正7年（1579）に、宇喜多直家が織田信長と結んで毛利氏に背いたことで起きた、備前・美作での戦いを指す
- C 織田信長と結んだ三村氏が勝利し、毛利・宇喜多連合軍を備中から退けて、備中松山城を守り抜いた戦いである
- D 天正2年（1574）冬から翌年夏にかけて、毛利・宇喜多連合軍と三村勢が備中の諸城をめぐる戦い、三村氏が滅んだ戦いである

問 3

西日本の日本名城全般

丸亀城の廃城から再築まで

次の表は、丸亀市の年表から、丸亀城が廃城となってから再び築かれるまでの経過を抜き出したものである。一国一城令で廃城となった年から、山崎家治が幕府から銀300貫を得て丸亀城を再築した年まで、西暦の差で何年か。

丸亀城の廃城と再築（年表より抜粋）

西暦	出来事
1615年	一国一城令で丸亀城が廃城となる
1641年	山崎家治が西讃岐5万石余の藩主となる
1642年	山崎家治が生駒氏の城跡を城地に決める
1643年	山崎家治が参勤交代を猶予され、幕府から銀300貫を得て丸亀城を再築する
1645年	幕府の命により丸亀城の絵図（正保城絵図）を提出する

- A 26年
- B 27年
- C 28年
- D 30年

問 4

西日本の日本名城全般

福岡城の天守台で

城めぐりの途中、友人と福岡城跡の天守台（現在は展望台）に上った。天守について友人が話した次の内容のうち、福岡市の公式サイトの記事に合うものとして、最も適切なものはどれか。

- A 「1646年に描かれた絵図『福博惣絵図』に天守閣が描かれているから、江戸時代の初めに天守閣があったことは確実だね」
- B 「福岡城の天守台はここ1つだけで、官兵衛・長政親子はここに天守閣を載せる計画だったと絵図からわかっているそうだよ」
- C 「絵図に天守閣がなく、幕府に遠慮して建てなかったと考えられてきたけど、2024年12月に『天守を建てた』と書いた新史料が見つかったそうだよ」
- D 「天守台の周辺は昭和の頃から何度も発掘調査されていて、天守閣がなかったことが確かめられているよ」

問 5

共通

比高から城館の種類を判定する

次の表は、丘陵・山稜上に立地する架空の城館3つについて、主郭のある頂部と麓の標高を示したものである。福岡県教育委員会の分布調査報告書の基準（山城＝比高約30～50m以上、丘城＝比高約30～50m未満）で分類したときの組合せとして、最も適切なものはどれか。

架空の城館の立地（単位：m）

城館	頂部の標高	麓の標高
甲城	216	36
乙城	44	26
丙城	95	72

- A 甲城＝山城、乙城＝山城、丙城＝山城
 B 甲城＝山城、乙城＝丘城、丙城＝丘城
 C 甲城＝山城、乙城＝丘城、丙城＝平城・平地居館
 D 甲城＝山城、乙城＝丘城、丙城＝山城

問 6

共通

洲本城跡の見学会

淡路島の洲本城跡をめぐる見学会で、案内役が遺構のつくられた時期を説明している。文化庁の指定文化財の解説に照らして、最も適切な説明はどれか。

- A 「北側の斜面にある2本の登り石垣は、寛永期に淡路統治の拠点が洲本へ戻ったときに新しく築かれたものです」
- B 「北側斜面の豎堀群は安宅氏の戦国期の段階、登り石垣は倭城との関係が想定される文禄・慶長期のものと推定されています」
- C 「方形の本丸や平虎口は、戦国時代前期に安宅氏が築いたときの姿が、改修を受けずにそのまま残ったものです」
- D 「各曲輪の石垣はほとんどが打ち込みはぎで、隅石垣などの一部にだけ野面積みの算木積みが使われています」

解答・解説

問 1 正解 B 西日本の日本名城全般 姫路城大天守の海拔

海拔の高さは、城が建つ姫山の標高に、石垣と建物の高さを足して求める。

海拔の計算（単位：m）

部分	高さ
姫山の標高	45.6
石垣の高さ	14.85
建物の高さ	31.5
合計	91.95

$45.6 + 14.85 + 31.5 = 91.95$ m である。姫路城公式サイトは同じ内訳を示したうえで「合計海拔92メートル」としており、これは91.95mを四捨五入した値である。したがって **B** が正しい。

他の選択肢 **A** は誤り。 $14.85 + 31.5 = 46.35$ で、石垣と建物だけを足した値（資料のいう大天守の高さ約46m）であり、姫山の標高を含んでいない。**C** は誤り。 $45.6 + 31.5 = 77.1$ で、石垣の高さを足し忘れた値である。**D** は誤り。 $45.6 + 14.85 = 60.45$ で、建物の高さを足し忘れた値である。

出典 姫路城の規模（姫路城公式サイト）「大天守の高さ」／知るほどはまる 姫路城トリビアン Part1（姫路市）11「大天守の重さと高さはどれぐらいあるの？」

問 2 正解 D 西日本の日本名城全般 備中兵乱

元龜3年（1572）に毛利氏と宇喜多氏が和睦すると、三村氏は織田信長と結んで毛利氏に背いた。天正2年（1574）冬から翌3年夏にかけて、備中松山城をはじめとする三村方の備中の諸城をめぐり毛利・宇喜多連合軍と三村勢が激しく戦ったのが**備中兵乱（中国兵乱）**で、これにより三村氏は滅んだ。このころには本城が小松山に移り、臥牛山一帯に大松山や天神丸などの出城・出丸（砦21丸）が設けられて、全山が一大要塞となっていたようだとされる。したがって **D** が正しい。

他の選択肢 A は三村家親が備中松山城主となった永禄4年の出来事で、備中兵乱とは時期も相手も異なる。B は三村氏滅亡後に宇喜多直家が毛利氏に背いた天正7年の動きで、資料はこれを備中兵乱と呼んでいない。C は結果が逆で、備中兵乱で滅んだのは三村氏であり、その後の備中松山城は毛利氏の番城となった。

出典 備中松山城の沿革（高梁市公式ホームページ、2021年6月25日更新）「備中松山城のはじまり」「備中兵乱」

問 3 正解 C 西日本の日本名城全般 丸亀城の廃城から再築まで

丸亀市の説明によれば、元和元年（1615年）の一国一城令で、生駒氏は高松城を残して丸亀城を廃城とした。その後、寛永20年（1643年）に山崎家治が幕府から銀300貫を得て再築している。

年数の計算

区間	計算	年数
廃城（1615年）→ 再築（1643年）	$1643 - 1615 = 28$	28

山上の縄張りは現在の形とほぼ一致し、扇の勾配の高石垣は山崎氏の手によるものとされる。したがって C が正しい。

他の選択肢 A は誤り。山崎家治が藩主となった1641年までの値（ $1641 - 1615 = 26$ ）である。B は誤り。城地を決めた1642年までの値（ $1642 - 1615 = 27$ ）である。D は誤り。正保城絵図を提出した1645年までの値（ $1645 - 1615 = 30$ ）である。

出典 丸亀市「丸亀城の歴史」本文・年表（1615年・1641年・1642年・1643年・1645年）

問 4 正解 C 西日本の日本名城全般 福岡城の天守台で

福岡市の公式サイトによると、1646年（正保3年）に描かれた絵図「福博惣絵図」には天守閣がなく、官兵衛・長政親子は幕府に遠慮して天守閣を建てなかったと考えられていた。しかし令和6年（2024年）12月に、「天守を建てた」と記述された新史料が発見されている。サイトは天守閣の存在は定かではないとしており、天守台周辺の発掘調査は令和7年度にはじめて行われた。したがって C が正しい。

他の選択肢 A は誤り。「福博惣絵図」には天守閣が描かれていない。B は誤り。福岡城には大・中・小の3つの天守台がある。また、1646年の絵図には天守閣が描かれていない。D は誤り。天守台周辺の発掘調査は令和7年度にはじめて行われたもので、天守閣の有無は定かではないとされている。

出典 【公式】福岡城・鴻臚館「天守台」「福岡城（国史跡）」第3段落（福岡市、2026年9月取得）

問 5 正解 B 共通 比高から城館の種類を判定する

区分の基準は比高、つまり頂部と麓の高さの差である。各城館の比高を求める。

比高の計算（単位：m）

城館	頂部の標高	麓の標高	比高
甲城	216	36	180
乙城	44	26	18
丙城	95	72	23

$216 - 36 = 180$ 、 $44 - 26 = 18$ 、 $95 - 72 = 23$ である。甲城は比高約30～50m以上なので**山城**、乙城と丙城はいずれも比高約30～50m未満の丘陵上なので**丘城**になる。したがって **B** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。比高ではなく頂部の標高（216・44・95）を、30mを境にそのまま当てはめて判定した場合の組合せである。C は誤り。丙城は丘陵上にあり、比高23mは丘城の範囲である。平城・平地居館は平地に立地する城館を指す。D は誤り。乙城は比高で判定しているが、丙城だけ頂部の標高95mで判定してしまっている。

出典 福岡県の中近世城館跡Ⅲ―豊前地域編―（福岡県教育委員会、2016年）Ⅲ 対象地域城館一覧<一覧表の項目解説>「種類」

問 6 正解 B 共通 洲本城跡の見学会

解説は、**豎堀群は安宅氏・戦国期段階、倭城との関係が想定される登り石垣（豎石垣）は文禄・慶長期の所産と推定している。**方形プランの本丸や平虎口などは脇坂段階のものを寛永期以降に一部改修したものと考えられ、戦国期・文禄慶長期・寛永期などの築城技術が層をなして累積している城とされる。したがって **B** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。登り石垣は文禄・慶長期の所産と推定されており、寛永期の新築とはされていない。C は誤り。方形プランの本丸や平虎口は、脇坂段階のものを寛永期以降に一部改修したものと考えられている。D は誤り。石垣はほとんどが野面積みで、隅石垣などの一部に打ち込みはぎの算木積みが用いられていると記されており、関係が逆である。

出典 洲本城跡（国指定文化財等データベース、文化庁）解説文

本章の出典

- 姫路城の規模（姫路城公式サイト 城ガイド、姫路市、2024年7月18日更新）
- 歴史（姫路城公式サイト、姫路市）
- 姫路城・姫路のPR動画（姫路城公式サイト 城ガイド、姫路市、2021年7月27日更新）
- 知るほどはまる 姫路城トリビアン Part1（姫路市 姫路城管理事務所、世界文化遺産登録20周年記念、平成25年）
- 国宝 彦根城 公式サイト トップページ（城の基本情報・よくあるご質問）
- 備前松山城の沿革（高梁市公式ホームページ、2021年6月25日更新、2026年9月28日取得）
- 岡山城を知る－岡山城の歴史（岡山城公式ウェブサイト、2026年9月28日取得）
- 築城前の広島／広島城築城（広島城公式ウェブサイト、2026年9月28日取得）
- 松山城総合事務所ウェブサイト「歴史と人物」（松山市城山公園及び公園内施設等指定管理者、2026年9月取得）
- 松山城総合事務所ウェブサイト「松山城の紹介」「松山城豆知識」（同、2026年9月取得）
- 高知県立高知公園ウェブサイト「高知城の歴史」（2026年9月取得）
- 丸亀市公式ホームページ「丸亀城の歴史」「丸亀城とは」（丸亀市文化財保存活用課、2022年12月22日更新）
- 知るほどはまる 姫路城トリビアン Part1（姫路市、世界文化遺産登録20周年記念・平成25年）
- 【公式】熊本城 トップページ（熊本市、2026年9月取得）
- 【公式】熊本城「熊本城の歴史」（熊本市・熊本城運営センター、2026年9月取得）
- 【公式】福岡城・鴻臚館「福岡城（国史跡）」「城の構え」「天守台」（福岡市、2026年9月取得）
- 佐賀県立佐賀城本丸歴史館「佐賀城の歴史」（佐賀県、2026年9月取得）
- 島原城公式ホームページ「島原城の歴史」（島原市、2026年9月取得）
- 首里城公園「首里城について」（一般財団法人沖縄美ら島財団、2026年9月取得）
- 建築・構造「縄張」（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所）
- 建築・構造「天守」「堀・石垣」（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所）

-
- 福岡県の中近世城館跡Ⅲ―豊前地域編―（福岡県文化財調査報告書第254集、福岡県教育委員会、2016年）
 - 洲本城跡（国指定文化財等データベース、文化庁）
 - 大宰府と古代山城の年代論（特別史跡 大宰府跡・大野城跡・水城跡 調査研究報告 第2部、九州国立博物館ほか、シンポジウム「徹底追究！大宰府と古代山城の誕生」2017年2月の記録）
 - 福岡県の中近世城館跡Ⅲ―豊前地域編―（福岡県文化財調査報告書第254集、福岡県教育委員会、2016年3月）
 - 佐敷城跡（国指定文化財等データベース、文化庁、2026年9月閲覧）
 - 洲本城跡（国指定文化財等データベース、文化庁、2026年9月閲覧）
 - 建築・構造「堀・石垣」（名古屋城公式ウェブサイト、名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所、2026年9月閲覧）
 - 明治23年に、政府が各地の城を払い下げた法的根拠を知りたい（レファレンス協同データベース、国立国会図書館、提供館 埼玉県立久喜図書館、2007年12月更新）
 - 史跡（文化財の紹介、文化庁、2026年9月閲覧）
 - 天守等の復元の在り方について（取りまとめ）（文化庁 史跡等における歴史的建造物の復元の在り方に関するワーキンググループ、令和元年8月）

いずれも公的機関等が公表している資料です。制度は改正されるため、受験にあたっては必ず最新版をご確認ください。

日本名城検定西日本 想定問題集

2026年9月版（第1.2版・2026年10月14日改訂）

発行：Skill Base Camp <https://skillbasecamp.com>

本書は非公式の学習教材であり、試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。

内容は公開情報に基づき著者が独自に作成しています。制作時点の情報に基づくため、制度の最新の状況は一次情報をご確認ください。

文中に記載される試験名・団体名・製品名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。